

↑
beyond



WebSpeed

WebSpeed (ウェブスピード) は
サイバー攻撃の防御・サイト表示の高速化 の機能を標準提供する
WordPress 専用のマネージドサーバーです。

サーバーのメンテナンス・セキュリティのアップデートを意識せずに
WordPress を用いたWebサイトの構築に専念できます。

ウェブスピード運営会社

↑
beyond

● 会社名

株式会社ビヨンド

<https://beyondjapan.com>

● 本社所在地

大阪府大阪市浪速区難波中1-10-4 南海SK難波ビル 3F
06-6536-8422

● 事業内容

- ・クラウド / サーバー事業
- ・システム開発事業
- ・Webサービス事業

● 認定資格

- ・第二種 電気通信事業（届出番号 E20-3097）
- ・ISO 27001 : 2013（認証登録番号 08201）



ウェブスピードの特徴

● ウェブスピード とは？ < <https://webspeed.ne.jp> >

ウェブスピードは サービスのお申込み約3営業日で、**WordPress の機能をすぐに利用できる** WordPress 専用のマネージドクラウドサーバーです。コーポレートサイトやメディアサイト・ECサイトなどの幅広い用途で、迅速なWebサイトの構築・公開を実現いたします。

また、**Webサイトへのサイバー攻撃の防御・サイト表示の高速化**に必要な機能を標準提供。お客様でセキュリティ・サーバーのことを意識する必要はありません。

【 特徴 ① 】

サイト表示の高速化・
サイバーセキュリティに対応

【 特徴 ② 】

サーバーやセキュリティの
構築・運用は不要

【 特徴 ③ 】

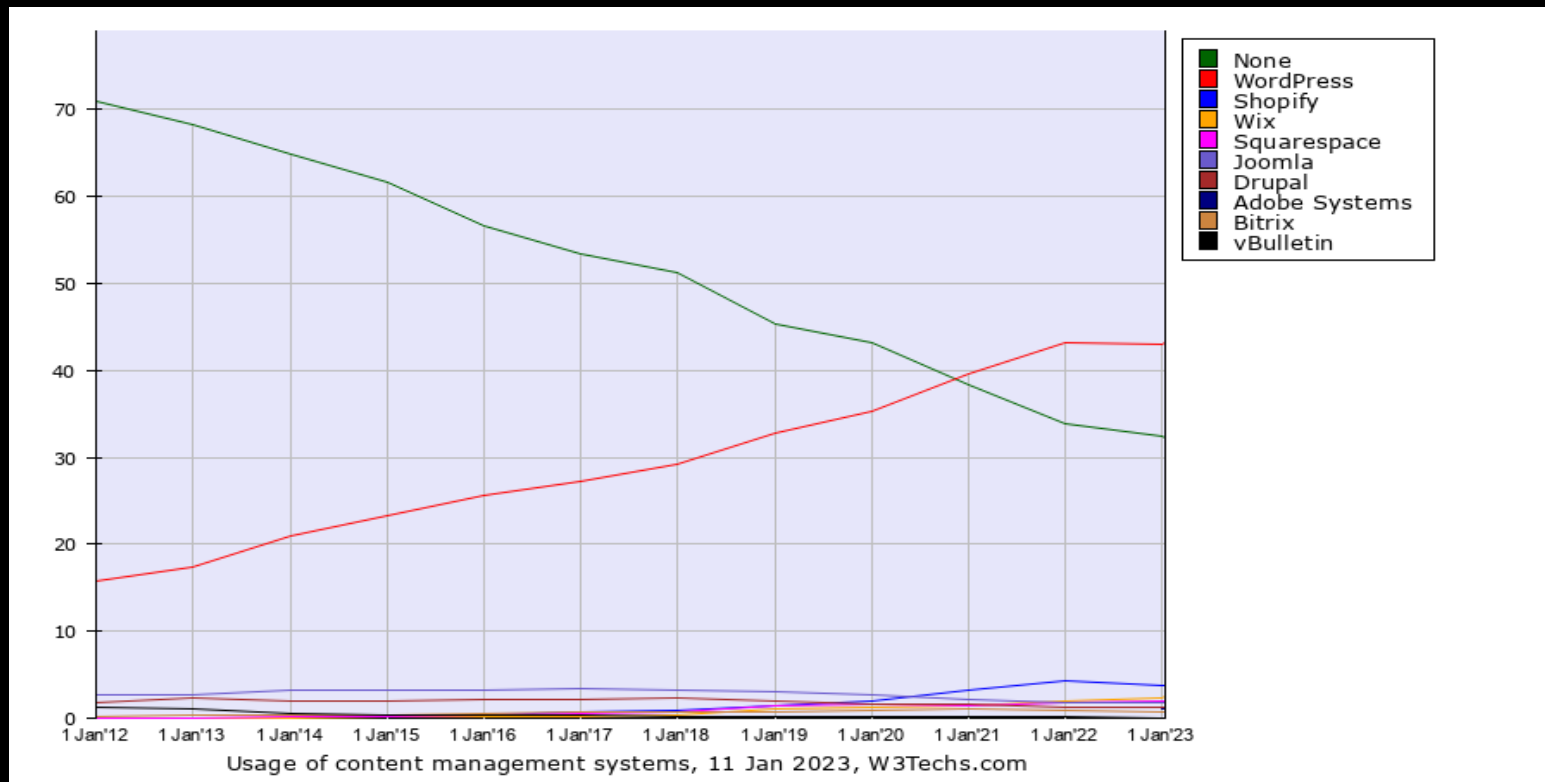
毎月のサービス利用料は
安心の定額制

Webサイトに WordPress が 選ばれる理由

WordPress のシェアと動向

WordPress（ワードプレス）とは、2003年に初版がリリースされたオープンソースで、無料で使えるCMS（コンテンツ管理システム）です。

世界的にもCMSとして圧倒的なシェアを誇っており、技術系の統計情報を出している W3Techs によると、現在 WordPressは、CMSを使う全ユーザーの **42%**（2022年時点）が使用しており、**世界の4割以上**のサイトが WordPress で作成されています。



● 参照 : W3Techs

https://w3techs.com/technologies/history_overview/content_management/all/

WebサイトにWordPressが選ばれる理由



世界だけでなく、日本でも個人サイトから企業・官公庁まで幅広く使用されている、WordPressが人気である理由には、**メリット**が多いという点があるため、高い普及率を誇っています。

- ・ **オープンソースなので、誰でも無償で利用できる**
- ・ **豊富なテーマで、Webサイトを作成することができる**
- ・ **様々な用途で使えるプラグインが揃っている**

WordPressを利用することで、コストパフォーマンスの高いWebサイトを構築できる反面、同時に近年では、WordPressを導入後における、**セキュリティリスクの低減**・**運用コストの捻出**という **デメリット** も浮上しています。

- ・ **WordPressがオープンソースとして利用できること**
- ・ **セキュリティの強化や更新などの運用が必要**
- ・ **高い普及率により、攻撃の対象になりやすい**

WordPressがオープンソースで利用できること

オープンソースということは「潜在的な ” 脆弱性 ” が全世界に公開されている状態」と言い換えることができます。

” 脆弱性 ” とは、複雑に構成されたシステム・プログラムにおいて、意図しないセキュリティ上の弱点のことを指します。
(システム・プログラム動作上の欠陥ではありません)

このセキュリティ上の弱点を狙われることで、
サイトへ対して不正なアクセスをおこなう攻撃者にとって標的となります。

- ・ FTPなどを使用せずに、ファイルをアップロードできてしまう
- ・ 不正なファイルを生成するような命令を、外部から実行できてしまう
- ・ 単なる一般のユーザー権限から、管理者権限に変更してサイトを書き換えられてしまう
- ・ 悪用目的で 顧客情報や決済情報などを閲覧、取得されてしまう

セキュリティ強化 や 更新 などの運用が必要

また、発見された脆弱性は、オープンソースコミュニティによって修正されますが、その修正されたプログラムを、各組織の WordPress に反映させるには、**それぞれが管理する WordPress に対して、個別にアップデート** する必要があります。

たしかに、このアップデートの作業を常時おこなっていれば、WordPress におけるセキュリティリスクの多くをカバーすることができますが、これらのアップデート作業は簡単なことではありません。

例えば、WordPress のセキュリティリスクを抑制するために、運用担当者は導入済みのプラグインのアップデート状況を確認し、追従できていないプラグインがあれば、代替となるプラグインを探して導入する必要があります。

また WordPress は、ユーザーが個別にサーバーを導入し、そのサーバーも構築・運用する必要があるので、「WordPress 自体」と「導入済みのプラグイン」のほか、「導入するサーバー」の**セキュリティリスクも考慮** しなければなりません。

高い普及率により、攻撃の対象になりやすい

攻撃者はWordPressの脆弱性を利用した攻撃手法を、WordPressの利用有無に関係なく、あらゆるサイトに対して**無差別に実行**します。

攻撃者にとっても、世界および日本で**高いシェア率を誇るWordPressを標的**にすることで、非常に効率的と言えます。

また、WordPressへの攻撃は成功したあとの自由度も高く、迷惑メールの送信元に悪用されたり、フィッシングサイトへの誘導、マルウェアの配布といった、サイトの信用そのものに関わる重大なインシデントが引き起こされます。



Webサイトの 被害と傾向

なぜ企業のサイトが狙われるのか？

- Webサイトの被害をもたらす攻撃には、大きく分けて2つあります。

1. 特定のサイトを狙って攻撃する「**標的型タイプ**」
2. 特定の人物・団体・企業などを標的とせず、脆弱性を持つサイトに攻撃する「**無作為タイプ**」

一般的に被害が最も多いのは「**2**」のパターンです。
つまり利用しているCMSやそのプラグインなどの脆弱性が被害の原因であり、「この企業・人物だから」という理由で狙われるわけではありません。

- Webサイトの改ざんのケースでは、具体的には以下のような被害が見受けられます。

- ・ 関連の無い他のサイト（詐欺サイトなど）に転送されてしまう。
- ・ サイトにログイン、アクセスできなくなる。
- ・ Google検索の結果で、タイトルや説明文が、全く関係のない通販サイトのようにになっている。

…etc

バックドアについて

バックドアとは、攻撃者が 攻撃先のシステムの自由を手中に収めるために、その **脆弱性を悪用して、サーバー内に不正なファイルを設置する行為** です。

FTP などサーバーに接続し、自由にファイルをアップロード・ダウンロードできれば、攻撃者はそのサーバーを事実上、乗っ取ることができます。

しかしほとんどの場合、攻撃者のサーバーの FTPアカウント まで持っているわけではありません。このため、代わりとなる「裏口」、つまりバックドアを設置します。

バックドアを設置されることで、攻撃者は FTPクライアント のようにサーバー内を一覧できます。ここからファイルをアップロードしたり、サーバーを操作したり、まとめてファイルを書き換えたり、あるいは不正なプログラムを動作させて、攻撃者が望む設定に書き換えるなどの行為ができます。

サーバー全体の悪用

バックドアは多くの場合、PHPファイルで生成されます。
これらのファイルは、**サーバーのユーザー単位** で動作します。
(例えば、サーバーの場合は、契約単位とも言えます)

マルチドメインなど、1つのサーバー契約で、複数ドメインやサイトを運用することが可能ですが、サーバーのユーザー単位では「1つのサーバーアカウント）」です。

このため、バックドアの設置によって、
そのサーバーアカウントで運用されている複数のサイトを改ざんすることが可能となり、
ほとんどの場合、すべてのサイトの延焼が起こります。

バックドアでの被害

バックドアは、文字通り「適当に配置」されるので、決まった所に配置されるわけではありません。

攻撃者はバックドアを通じて、様々なファイルのアップロードや、サイト改ざん（書き換え）、不正なコードの実行をおこない、これが目に見える被害となって現れてきます。

例えば、他サイトに転送されてしまうというケースの場合、WordPress などのCMSの場合、ヘッダー部分の読み込み段階で、他サイトへの転送をおこない、別のファイルを読み込みます。

つまり、ヘッダー部分の改ざん、そしてそこで読み取る不正なコードのファイルのアップロード、こうした「ファイル同士の連携」で目に見える被害が生まれます。

ウェブスピードを 導入する選択肢

ウェブスピードのセキュリティ



● WordPress プリインストール対応

最初からWordPressがインストール済の環境を利用できるため、すぐにWebサイトの制作・開発をスタートできます。



● WAF・CDN 機能を標準実装

Webサイトのセキュリティ強化・サイト表示の高速化に必要な、WAF / CDNの機能が標準実装されています。※ ライトプランはCDN対象外



● ミドルウェア 自動アップデート

ミドルウェア（マイナーバージョン）の自動アップデートの機能で、常に最新・堅牢なセキュリティを維持します。



● PHP バージョンの任意選択

サービスのお申込み時に、Webサイトの仕様・環境に沿って、2パターンのPHPバージョン（8.1 or 8.2）を任意で指定できます。



● SSL証明書を無料提供

SSL証明書の無料利用かつ自動更新でご利用いただけます。持ち込み（BYOL）による、SSL証明書の設置設定にも対応しています。



● データ転送量 従量課金なし

独自のクラウド / サーバー基盤で稼働するため、毎月のデータ転送量の従量課金・為替レートの影響はありません。

※ 一部の機能を抜粋しています。

ウェブスピードの機能一覧

■ サーバー機能

- ・ WordPressサイト数 : 1サイト (1WP)
- ・ ステージング環境 : 1サイト (1WP)
- ・ サーバーログイン : SFTP (秘密鍵を提供)
- ・ データベース管理ツール : phpMyAdmin
- ・ 自動バックアップ : UpdraftPlus
- ・ ログ保存 : アクセスログ / エラーログ
- ・ SSL証明書 : 標準提供 (Cloudflare)
- ・ WAF / CDN : 標準提供 (Cloudflare)
- ・ サービスコンソール画面 : ※ 今後リリース予定



ウェブスピードのセキュリティ機能一覧

■ サーバー基盤 セキュリティ

- ・ 仮想ファイアウォール
- ・ サーバーミドルウェア（マイナーバージョン）自動アップデート選択

■ Cloudflare WAF セキュリティ

- ・ Cloudflare Managed Rules
- ・ OWASP ModSecurity Core Rule
- ・ ボット対策
- ・ CAPTCHA/JS Challenge



ウェブスピードのセキュリティ機能一覧

■ WordPress セキュリティ

- ・セキュリティプラグイン (Wordfence)
- ・マルウェア (ウイルス) 検知
- ・リアルタイムIPブラックリスト (国別IPブロック)
- ・プラグイン / テーマ脆弱性監視
- ・アクセスレート制限
- ・総当たり攻撃ブロック
- ・ログインセキュリティ (Wordfence による二要素認証)



ウェブスピードのオプションサービス (別途追加料金が必要)

■ ストレージ容量追加

- ・ SSD 100GB

1,000円 / 月 (税別)

※ 100GB 単位で追加可能です。

■ メール送信機能

- ・ メール送信機能

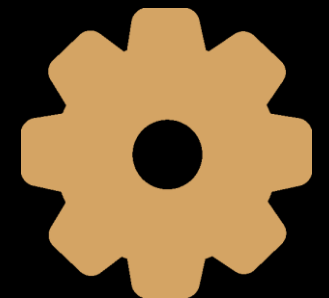
3,000円 / 月 (税別)

※ メールサーバー (メール受信) 機能は対象外です。

■ DNS / WAF / CDN カスタム機能

- ・ ネイキッドドメインでのWebサイト表示
- ・ SSL証明書の持ち込み利用 (BYOL)
- ・ WAFルールのカスタマイズ
- ・ CDNの高速自動キャッシュページ

一式 : 39,800円 / 月 (税別)



Cloudflare WAF について



Cloudflare WAF は、アプリケーションの安全性と生産性を維持するため、DDoS攻撃の阻止・ボットの回避・異常なアクセスを検出する、高度なWebアプリケーションファイアウォールです。

Cloudflare CDN の基盤と同じく、世界中のクラウドリージョンから提供されます。

・ WAFルールセット (OWASP TOP10)

WAFルールセットからの階層化された保護複数のルールセットを持つ、リクエストコンポーネントの悪意のあるペイロードを阻止します。

・ ゼロデイ保護のルール更新

パッチやアップデートが利用可能になる前に、新しい攻撃やゼロデイ脆弱性から保護するために、Cloudflare セキュリティチームによって継続的にルールが更新されます。

・ IPレピュテーションデータベース

10億を超える、固有のIPアドレスのリアルタイムインテリジェンスを使用して、悪意のあるIPからの接続をブロックします。

- ※ 一部の機能を抜粋しています。
- ※ ライトプランでは Cloudflare の利用は対象外です。

Wordfence について



Wordfence は 世界中で 最もシェアのある WordPress のセキュリティ強化するための、ファイアウォール・セキュリティスキャナー プラグインです。

Wordfence のプラグインでは、下記のようなセキュリティ機能を提供します。

・ログインセキュリティ

Brute Force 攻撃（総当たり攻撃）の保護、XMLRPCの保護、自動化された攻撃をブロックする reCAPTCHA、IP アクセス制御など、ログイン セキュリティ制御を強固なものにします。

・マルウェアスキャン

世界最大規模の WordPress 固有のマルウェア データベースを使用し、マルウェア侵入のブロック・悪意のあるアクティビティを検出し、WordPress を用いたWebサイトに対して、堅牢なセキュリティを維持するマルウェア シグネチャを生成します。

・Wordfence ファイアウォール

Wordfence では 常に WordPress コア・プラグイン・テーマの新しい脆弱性を継続的に発見しています。これらの脆弱性から保護する新しいファイアウォールルールは、すぐにリリースされ、リアルタイムで展開され、WordPress への侵入防止の機能を提供します。

※ 一部の機能を抜粋しています。

料金プラン

【エントリー】

■ サーバースペック
(1ホスト / 1WP)
vCPU 1core / MEM 4GB /
SSD 100GB

■ 主な利用ケース
少量のアクセスが想定されるWebサイト・コストを抑えたスモールスタート・システムの開発環境などの用途に適しています。

■ サイトアクセス
耐久性の目安・参考値
100,000 PV ~ 300,000 PV / 月

■ 料金
月額 29,800 円 (税込 32,780円)

【スタンダード】

■ サーバースペック
(1ホスト / 1WP)
vCPU 2core / MEM 8GB /
SSD 100GB

■ 主な利用ケース
企業のコーポレートサイト・ブログサイト・期間限定のキャンペーンサイト・スタートアップのサービスサイトなどの用途に適しています。

■ サイトアクセス
耐久性の目安・参考値
300,000 PV ~ 500,000 PV / 月

■ 料金
月額 49,800 円 (税込 54,780円)

【エキスパート】

■ サーバースペック
(1ホスト / 1WP)
vCPU 4core / MEM 16GB /
SSD 100GB

■ 主な利用ケース
中・大規模なアクセスが見込めるメディアサイト・ポータルサイト・ECサイトなど、アクセス集中が伴うWebサイトの用途に適しています。

■ サイトアクセス
耐久性の目安・参考値
500,000 PV ~ 1,000,000 PV / 月

■ 料金
月額 74,800 円 (税込 82,280円)

※ Webサイト / システム のプログラム仕様・状態に応じて、サイトアクセスの目安・参考値は変動します。

料金プラン

【ライト（共用ホスト）】

■ サーバースペック (1サイト / 1WP)

CPU 1CPU 相当 / MEM 2GB /
ディスク 100GB

■ 主な利用ケース

Webサイト・サーバーのセキュリティを高めながら、
ランニングコストを抑えることができる、レンタル
サーバー型のプランです。

■ サイトアクセス

耐久性の目安・参考値

1,000 PV ~ 100,000 PV / 月

■ 料金

月額 4,980 円 (税込 5,478円)

■ サーバー機能

- ・ WordPressサイト数：1サイト（1WP）
- ・ ステージング環境：1サイト（1WP）
- ・ ホスティング機能：Plesk
- ・ サーバーログイン：FTP
- ・ データベース管理ツール：専用ツールを提供
- ・ 自動バックアップ：Plesk の機能（任意）
- ・ ログ保存：アクセスログ / エラーログ
- ・ SSL証明書：標準提供
- ・ WAF：標準提供

■ サーバー基盤 セキュリティ

- ・ 仮想ファイアウォール
- ・ サーバーホスト型 IPS / IDS

■ WordPress セキュリティ

- ・ マルウェア（ウイルス）検知
- ・ リアルタイム IPブラックリスト（国別IPブロック）
- ・ プラグイン / テーマ脆弱性監視
- ・ アクセスレート制限
- ・ 総当たり攻撃ブロック
- ・ ログインセキュリティ（Wordfence による二要素認証）

※ Webサイト / システム のプログラム仕様・状態に応じて、サイトアクセスの目安・参考値は変動します。

お問い合わせ・お申込み

■ サービスURL

<https://webspeed.ne.jp>

■ サービスお問い合わせ・お申込み

<https://webspeed.ne.jp/contact>

beyond

WebSpeed (ウェブスピード) は、
株式会社ビヨンドが開発・運営する
WordPress クラウドサーバー です。